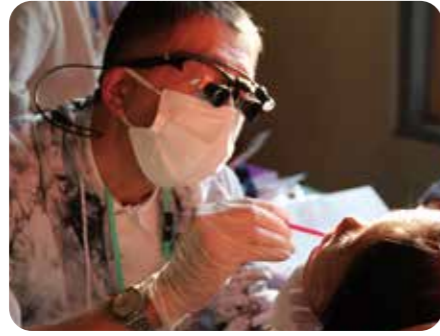


キコノ チカラ

日本財団 ドネーション事業部 活動報告書 2018

日本財団 チャリティー自販機 | TOOTH FAIRY | 子どもサポートプロジェクト | 災害復興支援 | HEROs | その他のプロジェクト



あの寄付の行方。

日本財団は、みんながみんなを支える社会を作るため、2008年より寄付を募ってまいりました。そして2018年度で11年を迎えました。

皆様のあたたかなご寄付に支えられ、国内・海外で様々な事業を実施することができます。誠にありがとうございます。皆様からいただきました、たくさんのご寄付は大きな力となり、被災地で辛い状況にある方々や、貧困

や難病に苦しんでいる子ども達に、笑顔や希望を与えています。

皆様からいただきましたご寄付は、間接経費をいただくことなく100%を事業に活用させていただきます。今後も、日本財団は、皆様からの『キフノチカラ』を、必要としている場所や人に届けてまいります。



「みんなが、みんなを支える社会」をめざして

私たちは、わが国の寄付文化をより広めることを目指し、2008年度より寄付金獲得への取り組みを開始致しました。2017年度で10年が経過し、2018年度は年間22億円に及ぶご寄付を受け入れることができました。ここに多くの皆様からのご厚志に対し、心より感謝を申し上げます。

さて2018年度は、地震、豪雨、台風など多くの災害に見舞われた一年でありました。その都度に皆様からの温かなご寄付や応援により、被災した現地において、いち早く復旧・復興活動に取り組むことができました。

また、戦後から、奇跡的復興と経済発展を遂げたわが国において、今日、相対的貧困の子どもが7人に1人という状況となっています。子どもの貧困問題は、徐々に認識が広まり、事の重大性に目が向けられ始めているものの、それへの取り組みはまだ緒に就いたばかりです。

そこで日本財団は、子どもの貧困問題対策への先駆けのモデル事業として、学校でもなく家庭でもない「第3の居場所づくり」の事業に着手し、3年目を終えることができました。

多様化する社会課題の解決は、国や自治体などの行政だけではできません。皆様をはじめとするより多くの国民がその解決のために参画することが不可欠と言えます。私たち日本財団の様な社会課題の解決に取り組む民間組織への寄付によるサポートがその参画の方法の一つだと考えます。

ここに2018年度ファンレイジング(寄付集め)、その寄付金による事業活動のご報告をお届けいたしますのでご覧賜りますれば幸甚に存じます。

私たち日本財団は「みんながみんなを支える社会」を目指します。引き続き、日本財団の事業活動にご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本財団
会長 笹川 陽平

笹川 陽平



たくさんの
2018年度も、ありがとうが
生まれました。



VENDING MACHINE

日本財団 チャリティー自販機



1本10円の社会貢献「日本財団チャリティー自販機」

2008年より設置を開始した「日本財団チャリティー自販機」は2018年度で11年目を迎えました。全国で7,200台以上が設置されており、累計12億円を超えるご寄付をいただいております。ご支援・ご協力いただきありがとうございます。

2018年度からは、日本財団が実施する5つのプロジェクトから寄付先を選んでいただく仕組みに大きく変更いたしました。自販機設置者の皆様からいただきましたご寄付は、

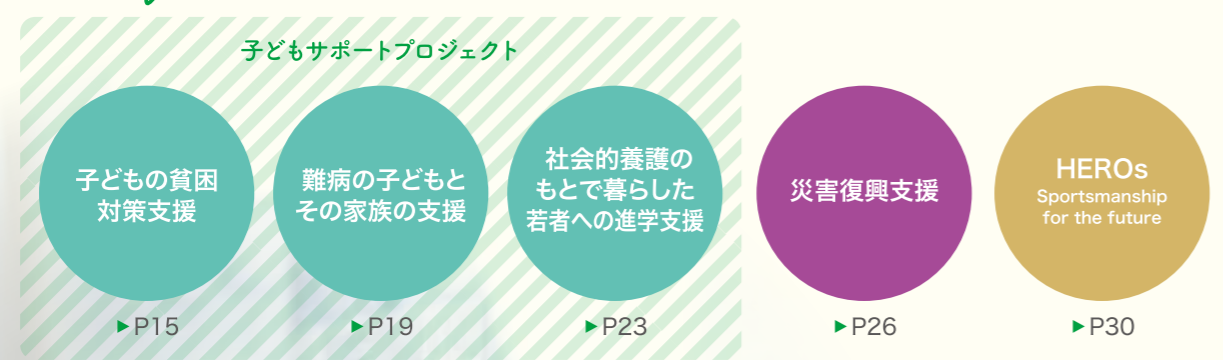
100%全額、子どもの貧困対策支援・難病児とその家族への支援・社会的養護のもとで暮らした若者への進学支援・災害復興支援・アスリートが進める社会貢献活動支援等に活用させていただきます。1本10円のご寄付が、貧困や病気とたたかっている子ども達や被災地で頑張っている方々へ、大きな力となって届いています。

◇活動の概要

寄付の仕組み(例)



支援プロジェクト



1本10円のご寄付は、5つのプロジェクトに活用させていただきます。それぞれの事業については、各プロジェクトページをご覧ください。自販機の設置者の皆様と飲料を購入された方による社会貢献活動を、引き続き推進してまいります。目指せ！全国10,000台！

◇チャリティー自販機設置者の声



香川県
興亜産業株式会社
代表取締役社長 眞砂 徹様

【導入経緯】
2008年7月から夢の貯金箱を1台設置しました。日本財団の取り組み「夢の貯金箱」、現在のチャリティー自販機を知り参加させていただきました。

【導入後の反応】
(小さな一歩が大きな前進) Go ahead
11年前に社員に寄付文化(社会貢献)を知って貰いたいと思い構内にある自販機1台でスモールスタートしました。自販機があることが当然の如く月日は流れ、昨今では仕事の性質上、熱中症の安全対策として構内の自販機は6台に増えました。社員全員が仕事の合間で水分補給と社会貢献の思いで利用しています。今後も安全対策と社会貢献の視点で日本財団チャリティー自販機がさらに大きな社会貢献の輪へと広がりますよう応援継続してまいります。



山口県
大晃機械工業株式会社
常務取締役 山根 雅和様

【導入経緯】
2008年10月から夢の貯金箱を2台設置しました。当時会社として社会貢献を何かしようと考えていた時期に日本財団の取り組み「夢の貯金箱」、現在のチャリティー自販機を知り参加させていただきました。

【導入後の反応】
当時、自販機の売価100円に寄付の10円を足して110円販売でスタートしました。最初は社員の反応を心配しましたが反対もなく、寄付意識の定着と向上によりスムーズなチャリティー自販機の利用に繋がっています。今では工場に4台となったチャリティー自販機を社員のみならず普通にドリンク購入として利用しています。その普通の行動が日本財団をハブとして社会貢献活動につながり、社会の役に立っている事の嬉しさを感じる社員の気持ちの素晴らしさに応える為にも今後も継続してまいります。



広島県
株式会社シンコー
代表取締役 筒井 幹治様

【導入経緯】
2012年11月から夢の貯金箱を2台設置しました。2011年東日本大震災への日本財団によるきめ細かな災害支援とスピード感には大変共感しました。末端の方々への迅速な対応は、他の団体には真似のできないものであり、災害に遭われた方にとっても心強い支援になったと思います。その共感もあり翌2012年、日本財団が取り組む「夢の貯金箱」、現在のチャリティー自販機を設置させていただきました。

【導入後の反応】
昨年の西日本豪雨災害に広島県内も私自身も近隣も災害の影響を受けました。社内でもボランティアを募集し、被災した仲間やOB・知り合い等の支援を行いました。ボランティア活動に参加したスタッフは感謝される気持ちが喜びとエネルギーとなり、今後の人生にも仕事にも良い影響を及ぼす体験となりました。現在ではチャリティー自販機を7台まで増やし、日本財団を通して社会貢献に関わらせていただいている状況です。今後も弊社は全社員参加型の社会貢献ツールとして、チャリティー自販機を継続して参ります。

TOOTH FAIRY

金歯や銀歯での社会貢献 トゥース・フェアリー



役目を終えた歯科撤去金属の寄付

2009年より開始しましたTOOTH FAIRYプロジェクト。2018年度で10年目を迎えました。全国で6,719医院に参加していただき、累計寄付金額は15億円を突破いたしました。ご支援、ご協力いただきありがとうございます。

歯科治療や入れ歯に使う金属は金やパラジウムなどを含んだ合金できており、この金属をリサイクルすることで、難病や貧困と闘っている子どもたちを支援する大切な資金

となります。TOOTH FAIRYプロジェクトはこの活動に共感した歯科医院が、患者様の協力により集めた金属をご寄付いただくことにより進めてまいりました。

金歯や銀歯でのご寄付が、支援を必要としている子どもたちへ、「夢」や「希望」という大きな力となって届いています。

◇チャリティー自販機推進担当者の紹介



前田 勝也 Maeda Katsuya

【出身地】宮崎県
【趣味】家族・単車・一眼レフ・ご朱印帳・昭和あれこれ
【短所】少し遅れる
【好きなもの】甘いもの・季節の果・サンドウィッチマン
【その他】ユーチューバーになりたい！

皆様
に
一言！

いつも日本財団チャリティー自販機設置へのお力添え誠にありがとうございます。お陰様で7,200台突破となりました。2018年度は西日本豪雨、北海道地震と相次ぐ自然災害に見舞われ、政治では働き方改革、外国人就労の日本社会の在り方に大きな影響を及ぼす二つの法律が整備された年となりました。2019年度は平成から令和に改元となりました。日々平穏を願いチャリティー自販機設置8,000台突破を目指し力強い推進活動させていただきます。皆様どうぞよろしくお願いたします。



佐藤 優至 Sato Yuji

【出身地】東京都大田区、生後半年で横浜に移り、中途半端な浜っ子です
【趣味】サッカー、キャンプ、スポーツ観戦
【性格】4人兄弟の3番目で、兄に隠れて美味しい所だけ持っていきます。
【好きな言葉】至誠通天

皆様
に
一言！

チャリティー自販機パートナーの皆様、いつもご支援を賜り誠にありがとうございます。2008年から活動がスタートしました夢の貯金箱ですが、チャリティー自販機へと名前を変えて活動は11年が経ちました。自販機で飲料を購入するだけで、どなたでも参加できる社会貢献として、年間2500万人以上の方々にご利用いただけるまで、支援の輪が広がっております。これからも支援の輪を広げるべく活動して参りますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。



矢野 浩 Yano Hiroshi

【出身地】徳島県
【趣味】ボートレースを本場で観戦すること
【性格】ナイーブ
【好きな食べ物】日本甘党と助六寿司

皆様
に
一言！

日頃より日本財団チャリティー自販機の推進へご支援をいただき誠にありがとうございます。皆様の1台が、1本が社会課題解決の大きな力となっております。これからも更なる御縁が広がりますように、寄付文化醸成にご理解とご協力のほどよろしくお願いたします。



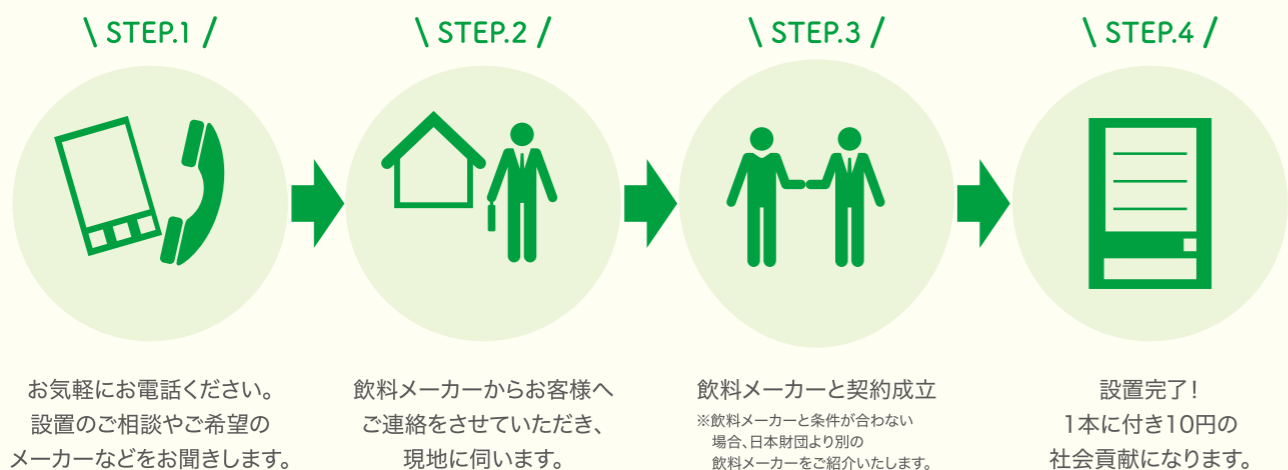
町田 和久 Machida Kazuhisa

【出身地】群馬県
【趣味】スポーツ観戦、野球、日本経済
【性格】やたら感動しやすい。
【好きなバラ科】サクラ(桜)

皆様
に
一言！

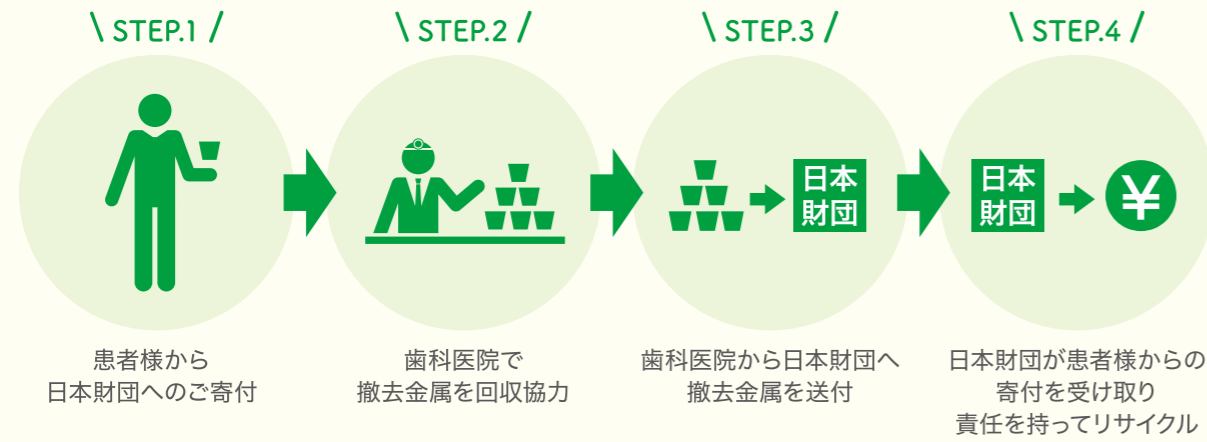
2019年度、新メンバーに加わりました。大きく視点を換え、多角的な視点を養いながらフレッシュな気持ちで、支援の輪を広げ「みんなが、みんなを支える社会」をめざします。皆様のところへ、ご訪問させていただく際はどうぞよろしくお願いたします。

◇チャリティー自販機のお申込みから設置までの流れ



◇活動の概要

寄付の仕組み



支援プロジェクト

<スクールプロジェクト>

<チャレンジキッズプロジェクト>

ミャンマー等途上国における学校建設支援(国外)

▶P12

難病の子どもとその家族の支援(国内)

▶P19

TOOTH FAIRYプロジェクト10周年を迎えて

日本歯科医師会が協力し、日本財団が主体となって実施している「TOOTH FAIRYプロジェクト」は、本年で丸10年になりました。不要になった患者様からの歯科撤去金属を歯科医院が回収協力し、得られた資金で行うこの活動は、参加歯科医療機関数は6,700超、寄付総額は15.5億円に達する大規模プロジェクトに発展しました。

歯科医師だからできるこの社会貢献活動により、難病や障がいを抱える子ども達とその家族への支援事業や、ミャンマーでの学校建設事業が展開されています。

支援活動は継続が重要であり、10周年という節目を機に、更に多くの歯科医療機関が参画し、本活動が少しでも多くの社会貢献に繋がることを心から祈念いたします。



公益社団法人 日本歯科医師会 会長 堀 憲郎氏

◇2018年度の主な活動報告 その1

チャレンジキッズプロジェクト(難病児とその家族の支援)

2018年度は全国で21の事業を実施いたしました。歯科医院や患者様からの金歯や銀歯によって、病気で辛い思いをしている子どもたちへ笑顔をお届けしています。



1. 病院、施設、自宅での子どもの成長を支える取り組み

事業名	団体名
クラウン(クリニックラウン、クラウンボランティア)による子供の成長サポート	特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会(大阪府) 特定非営利活動法人 クラウンボランティア・ティアドロップ(大分県)
ファミリィドッグによる入院中の子どもの心のケア	特定非営利活動法人 シャイン・オン・キッズ(東京都)
ビーズによる入院中の子どもの心のケア	特定非営利活動法人 シャイン・オン・キッズ(東京都)
芸術・スポーツプログラムを病院、施設等に届ける活動	特定非営利活動法人 スマイルングホスピタルジャパン(東京都) 特定非営利活動法人 On Pal(福岡県) 特定非営利活動法人 Being Alive Japan(東京都)
ホスピタル・プレイ・スペシャリストによる遊びのワークショップ	特定非営利活動法人 ホスピタル・プレイ協会(静岡県)



クラウンが入院中の子どもへ笑顔をお届けます

2. 旅行やキャンプ等を通じた子どもを支える取り組み

事業名	団体名
難病の子どもと家族のファミリーレスパイトと交流旅行	特定非営利活動法人 びわこファミリーレスパイト(滋賀県) 公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を(東京都) 認定特定非営利活動法人 難病の子ども支援全国ネットワーク(東京都) 公益財団法人 そらぶちキッズキャンプ(北海道) 認定特定非営利活動法人 NEXTEP(熊本県) みくりキッズくりにく(東京都) 社会福祉法人 東大寺福祉事業団 奈良親子レスパイト(奈良県)
1型糖尿病の子どもの自己管理能力を高める学習キャンプ	公益社団法人 日本糖尿病協会(東京都)
ウィリアムズ症候群の子どもと家族のためのミュージックキャンプ	特定非営利活動法人 Smirhythm(東京都)
難病の子どもと家族の交流イベント	認定特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会(東京都) 一般財団法人 Orange Kids Care Lab(福井県) 認定特定非営利活動法人 うりずん(栃木県)



ボランティアの先生による歯科健診



改修したレスパイトハウスの前で



車いすでも行けるツリーハウス

難病児キャンプには、以下の先生たちが口腔ケアボランティアに参加いただいております。誠にありがとうございました。

(1) 難病児キャンプ参加歯科医師・歯科衛生士(12名)

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県	氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
三浦 康弘氏	一関歯科医師会	岩手県	小林 慎介氏	榛原歯科医師会	静岡県
明石 雅江氏	一関歯科医師会	岩手県	赤堀 仁則氏	榛原歯科医師会	静岡県
小家 雅子氏	一関歯科医師会	岩手県	榎田 洋平氏	榛原歯科医師会	静岡県
盛原 健司氏	もりた歯科医院	神奈川県	伊藤 明彦氏	伊藤歯科医院	熊本県
嶋原 瑛子氏	医療法人社団祥豊会 杉山歯科医院	神奈川県	伊藤 道子氏	ひまわり歯科	熊本県
又平 基史氏	榛原歯科医師会	静岡県	鈴木 明彦氏	鈴木歯科クリニック	兵庫県

(2) 小児糖尿病キャンプ参加歯科医師・歯科衛生士(22名)

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県	氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
沼澤 孝典氏	沼澤歯科医院	山形県	大野 倫子氏	大野歯科医院	大阪府
沼澤 由紀氏	沼澤歯科医院	山形県	孔 俊樹氏	わかさ歯科	山梨県
速藤 久氏	ハロ一矯正歯科 歯科クリニック	福島県	澤田 章司氏	澤田歯科医院	東京都
小穴 実氏	堀金歯科医院	長野県	小島 利文氏	小島歯科室	三重県
野上 俊雄氏	野上歯科医院	茨城県	原瀬 忠広氏	医療法人 原瀬歯科医院	愛媛県
伊藤 明彦氏	伊藤歯科医院	熊本県	松見 秀之氏	松見歯科医院	埼玉県
伊藤 道子氏	ひまわり歯科	熊本県	井上 修一氏	井上歯科クリニック	兵庫県
中村 光宏氏	なかむらファミリー歯科	北海道	鈴木 明彦氏	鈴木歯科クリニック	兵庫県
			氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
			氏原 浩文氏	氏原歯科医院	千葉県
			山崎 猛男氏	さくら歯科	宮城県
			奥 淳一氏	奥歯科医院	鹿児島県
			奥 道子氏	奥歯科医院	鹿児島県
			村岡 卓也氏	医療法人瑞帆会 むらおか歯科医院	福岡県
			梶嶋 直明氏	医療法人 古川歯科クリニック	福岡県

3. 難病の子どもと家族のための施設等を整備する取り組み

事業名	団体名
施設・機器の整備	といぼけっと(大阪府)

これまでに全国で8カ所の施設整備を行うことができました。(沖縄は整備中)

なお、難病児とその家族への支援事業に関しては21ページにて詳細を記載しております。



◇2018年度の主な活動報告 その2

スクールプロジェクト ミャンマー学校建設支援

2018年度は、ミャンマー連邦共和国

イラワジ地域に4校の学校を建設いたしました

開発途上国の貧困解決には、基礎教育支援が重要ですが、同時に村落の開発支援を行うことも非常に大切です。学校の維持運営には、修繕費の確保、教師の確保など継続的な資金が必要です。TOOTH FAIRYでは、校舎の建設費の1/4を自己負担させ、建設協力も行わせることで、自立運営への意識づけを行います。

また、共同農園やマイクロクレジット、小規模水力発電などの収益事業の原資提供、計画策定、運営指導を行うことで、運営資金を確保し、学校運営基盤を整え、継続的に質の高い教育を提供することを可能にしています。

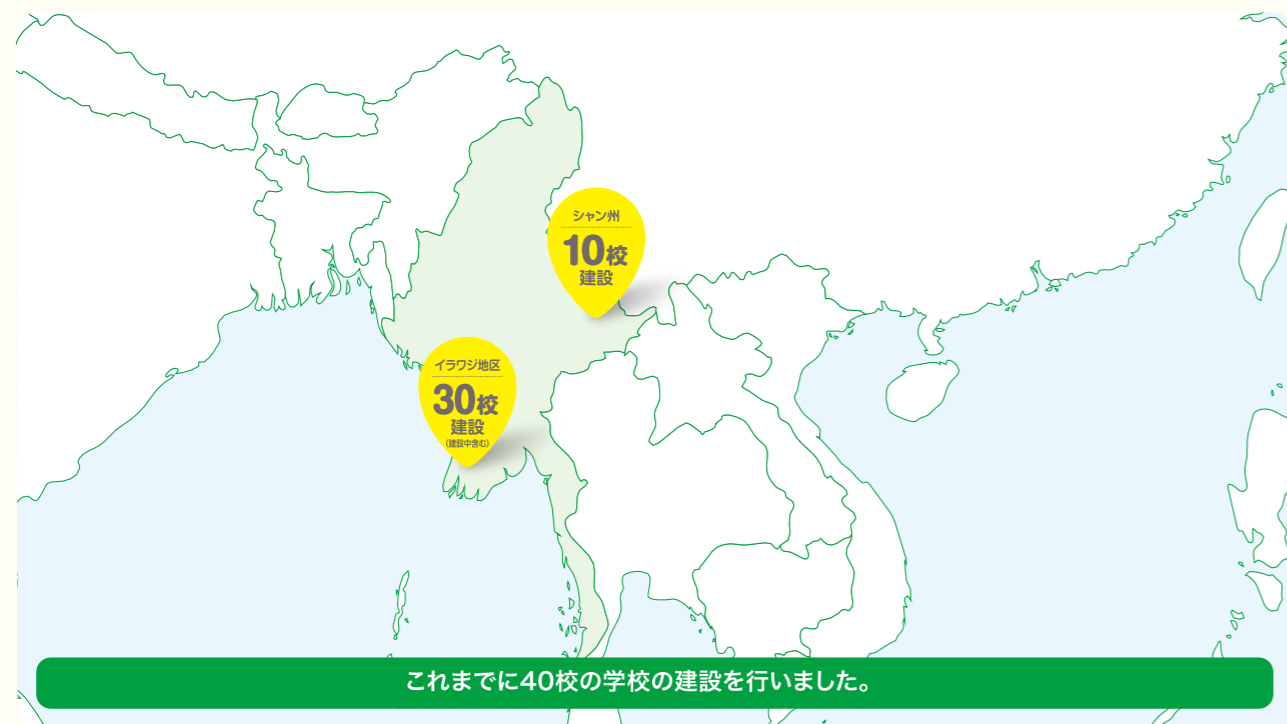
事業名	ミャンマーの少数民族地域、農村地帯に対する学校建設
団体名	認定NPO れんげ国際ボランティア会
活動概要	ミャンマー少数民族地域、農村地帯に学校を建設し、同時に学校建設地の村において農村開発プロジェクトを展開します。その収益を教員確保等に充て、持続性のある学校運営を実施します。
支援地域	ミャンマー連邦共和国 イラワジ地域3タウンシップ (パテイン、ラプタ、ジョンピョー)
建築校数	4校



Labuta Township Kyu Taw Branch高校



Pathein Township Tha Yar Kone中学校



◇2018年度の主な活動報告 その3

ミャンマーボランティアツアー

日程	2019年1月30日～2月3日
訪問先	ミャンマー共和国シャン州 タンテ(Than Tae)高校 パーヌエ(Par Nway)小学校 ナンパン(Nan Pann)中学校

ミャンマー口腔ケアボランティア 協力歯科医師(11名)

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
井出 壺也氏	いで歯科医院	千葉県
伊藤 道子氏	ひまわり歯科	熊本県
梅津 謹也氏	汐見台歯科	宮城県
江並 正博氏	江並歯科医院	大阪府
大野 真吾氏	大野歯科医院	大阪府
大野 倫子氏	大野歯科医院	大阪府



民族衣装を着た子どもたちが大歓迎してくれました

歯ブラシ提供元	ライオン株式会社(提供本数:1,200本)
---------	-----------------------

TOOTH FAIRYでは、地域住民が主体的に行う学校建設、運営の後押しに加え、子ども達への口腔ケアや予防教育を歯科医師のボランティアにより進めています。2018年度は11名の先生にご協力いただき、ミャンマーの山岳少数民族地域を訪問し、口腔ケアや歯磨き指導を実施しました。

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
小山 和彦氏	小山歯科医院	静岡県
佐藤 麗氏	フェイス歯科医院	新潟県
角町 正勝氏	角町歯科医院	長崎県
濱 陽子氏	広島口腔保健センター	広島県
前田 龍一氏	前田歯科医院	兵庫県

これまでに累計90名の先生にご協力いただいております



歯科検診の様子

ミャンマーでは、まだまだ歯磨きや虫歯予防教育に関する知識が十分ではありません。一方で急速な経済発展により、子ども達は甘いお菓子に触れる機会が多くなり、虫歯の子どもも増えていることが歯科検診によりわかりました。ボランティアツアーでは、染め出し液を使った歯ブラシ指導やフッ素洗口等を行い、歯磨きの大切さや虫歯予防についての講習を行いました。



ライオン株式会社様より歯ブラシをご提供いただきました

CHILD SUPPORT PJT

子どもサポートプロジェクト 子どもの貧困対策支援



あたたかい家庭のような第三の居場所を

都市化が加速し、コミュニティが弱体化する現代、貧困世帯が孤立して支援につながらず、結果として子どもの貧困問題の深刻化を招き、現在日本において7人に1人が相対的貧困の状況にあるといわれています。

そこで日本財団では、2016年から行政や地域、その他民間のパートナーと協働し、地域の子どものもう一つの家である「第三の居場所」の設置を進めています。「第三の居場所」では、専門的な

研修を受けたスタッフが、子ども達へ学習支援だけでなく、生活のリズムをつくり、手洗いや歯磨き、食事の配膳・片付けなど基礎的な生活習慣の支援も行っています。子ども達の自立する力を育む居場所づくりを、全国で100箇所整備することを目指し、2018年度までに全国で15箇所の「第三の居場所」が整備され約120人の子ども達がこの居場所に通っています。皆様からのご寄付が、貧困状態にある子ども達を支える、大きな力となって全国に届いています。

◇寄付歯科医院の声

世界中の子どもたちの夢と希望を支える

歯科医師会から壊れた入れ歯や使えなくなった差し歯などを寄付することで社会貢献が出来るというお知らせが届きました。ミャンマーでの学校建設や難病で苦しむ子どもたちを支える活動に共感して日本財団の寄付事業 TOOTH FAIRYへの参加を決めました。

患者さんに撤去した差し歯で社会貢献ができることをお伝えすることで患者様にも寄付の気持ちが芽生えることもあります。歯科医師個人でできることは小さなことですが、皆でやることで大きな支援になることを財団の活動を通じて実感しております。日本、そして世界の子ども達が夢と希望を持ち続けていけるよう患者様と末永く協力していきたいです。



いで歯科医院 井出 壹也先生

勉強会を通じてプロジェクトに賛同

私たちSDB会は大阪府下の開業医を中心として勉強会や講習会等を行っている有志の会です。年二回の勉強会の際に、日本財団の方から難病児支援やミャンマーでの学校建設などTOOTH FAIRYの活動報告を聞かせていただく機会があり、どのような支援に使われているか知ることもでき多くのSDB会員の先生方がプロジェクトに賛同し、参加登録をいたしました。患者様を通じて歯科医院のできる社会貢献として、大変意義のある活動になると期待しております。SDB会として子ども達の笑顔を増やすTOOTH FAIRYの活動を、引き続き応援していきたいと思っております。



SDB会の皆様

全国の歯科医師、患者様からのご協力のもと、
国内外の子どもたちへ笑顔をお届けしていきます。

◇第三の居場所におけるイベントの実施

夏休みや冬休みなど長期休暇中も、保護者が忙しく、諸事情によって季節のイベントや、レジャーが思うように叶わない子ども達もいます。そこで「第三の居場所」に通う児童に対し、イベントや体験活動などを行いました。

これまでに実施した中には、パンやピザづくりの体験や、ハロウィンやクリスマスパーティー、また親子で遊園地へ遠足などがあります。遠足では「一緒に一日遊ぶなんていつぶりだろうね」と親子で楽しそうに話す様子もありました。

また学校の先生や自治体、運営団体の関係者など、拠点を支えていただいている皆様に、子ども達が料理を振る舞うおもてなしイベント「こどもレストラン」の開催を行った拠点もありました。



仲間たちと、家族と思いきり楽しむ遊園地



地域の皆様へ「こどもレストラン」オープン

◇日本財団子どもの貧困対策 オフィシャルパートナー

日本財団と「子どもの貧困対策オフィシャルパートナーシップ」を締結していただいたパートナー企業様の様々なご寄付にも支えられております。



CTC
Challenging Tomorrow's Changes

各拠点にお米とお茶のご寄付
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社様

2018年度でお米が1.6トン、お茶が9キログラムのご寄付をいただきました。2019年度は拠点数が拡大したため、さらに増えて、お米3.6トン、お茶18キログラムものご支援が予定されています。



SONY

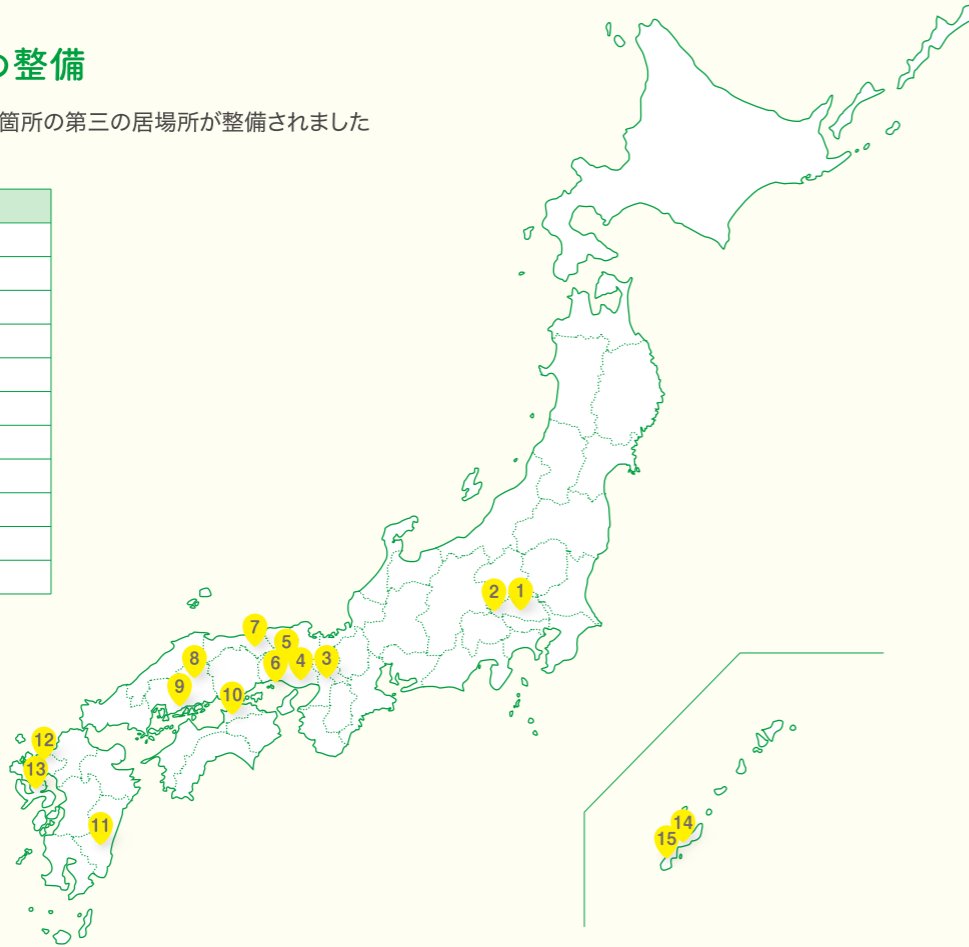
「感動体験プログラム」のご提供
ソニー株式会社様

第三の居場所におけるソニーグループの技術やコンテンツを活用した多様なワークショップを通じて、日頃体験機会が十分ではない子ども達に感動体験を提供していただき、好奇心や創造性などの向上をサポートします。

◇第三の居場所の整備

2018年度までに全国で15箇所の第三の居場所が整備されました

第三の居場所
①埼玉県戸田市
②埼玉県和光市
③大阪府箕面市
④⑤⑥兵庫県尼崎市(3拠点)
⑦鳥取県鳥取市
⑧⑨広島県尾道市(2拠点)
⑩香川県丸亀市
⑪宮崎県宮崎市
⑫佐賀県唐津市
⑬長崎県大村市
⑭⑮沖縄県うるま市(2拠点)



◇2018年度開設拠点紹介



縁側を通じて地域とつながる拠点に
⑭沖縄県「うるま拠点」(2018年8月開設)

うるま拠点は、対象の子ども達の通う小学校に隣接している一軒家が舞台。関係者の皆様のおかげで完成した拠点は、地域に馴染んだごく普通の一軒家、といった雰囲気ですが、通りから見える場所には広い遊び場と、縁側があります。子ども達がこの縁側で遊んだり、スタッフが手作りした黒板に絵を描いたりしていると、通りかかる地域の方々が声をかけてくださいます。



「ただいま」が似合う場所に
⑩香川県「丸亀拠点」(2018年10月開設)

丸亀拠点の建物は、地元にあった木造の空き家を、ほとんど手を加えることなく利用しています。このような場所を選んだのは、子ども達に普通の家と同じような感覚で、「ただいま」と帰って来て欲しかったからです。マナー教室や茶道、英会話などボランティアの先生がたくさんいるのも丸亀拠点の楽しさの一つです。



様々な体験ができる拠点に
⑫佐賀県「唐津拠点」(2018年11月開設)

唐津拠点は、地元のボランティアの方々による子ども達を対象とした座禅教室や絵画教室などの講座などを開催しています。座禅教室では、拠点近くのお寺の和尚様の指導で、休憩をさみながらも約1時間の座禅にチャレンジしています。また、専用農園があるため、春夏秋冬、子ども達は、泥んこになりながら野外で農作業を体験することができます。

◇支援現場の声

「今」と「未来」につながる支援

2018年度中は、沢山のご支援をいただき、本当にありがとうございました。丸亀拠点では、食事の提供を始め、キャンプなどの野外活動、地域の方を招いた体験学習などを行いました。孤食が多い今、健康的な食事を、皆で食べる経験を通して、食事マナーを身に着けたり、自主的に手伝いをしてくれたりと、子ども達の着実な変化を感じています。また、自分の気持ちを伝えることが苦手だったお子様が、野外活動などで友達や地域の方と協力する経験を得て、自分の気持ちを表現できるようになってきました。勉強だけでなく、人との出会いや、多様な経験を提供することが、とても大切なのだと思います。ここに通う子ども達が、いつかこの場所を思い出し、また遊びに来てくれるような繋がりを築きたいと思っています。どうぞこれからも私達の活動を見守ってくださると幸いです。



丸亀拠点マネージャー
本西 志保さん

子どもの成長につながる体験を実現できた

多くのご支援のおかげで、この春、念願だった一泊二日のキャンプを行うことができました。私たちの拠点には、県外への旅行や外泊の経験がない児童がいます。住みよい家を離れ、子ども達自身の力で困難に挑む気持ちを培ってほしい。私たちは、それにはキャンプがぴったりなのではないかと思っていました。初めて外泊する子が、本当に寒風の中で野営できるのかな…と大人が心配するのをよそに、峠を越え、海に潜り、岩場を探検する姿に心を打たれました。普段、外に出るのが苦手な子が、一言も「帰りたい」と言わなかったのです。体験する機会があれば、どの子どもも自分を表現することができるのだと思います。きっとこの体験が、子どもの成長に繋がると信じています。



尾道拠点マネージャー
山田 克芳さん

今後、全国に100カ所を目指して第三の居場所を建設し、地域のNPOなどと協力しながら運営していく予定です。

CHILD SUPPORT PJT

子どもサポートプロジェクト
難病の子どもとその家族の支援

難病児とその家族へ笑顔を届けるために。

小児がんや心臓の病気など、とても重い病気で常に治療と向き合っている子ども達は全国で25万人以上。また、人工呼吸管理や経管栄養など、何らかの医療的ケアを必要としながら自宅で生活している子どもは全国で1万8千人といわれ、私たちの町にも重い病気と共に暮らしている家族がいます。「みんなと同じ様に、学校に通いたい、遊びたい」と思う子ども、そして「できることなら自分が代わりたい」と思う親。

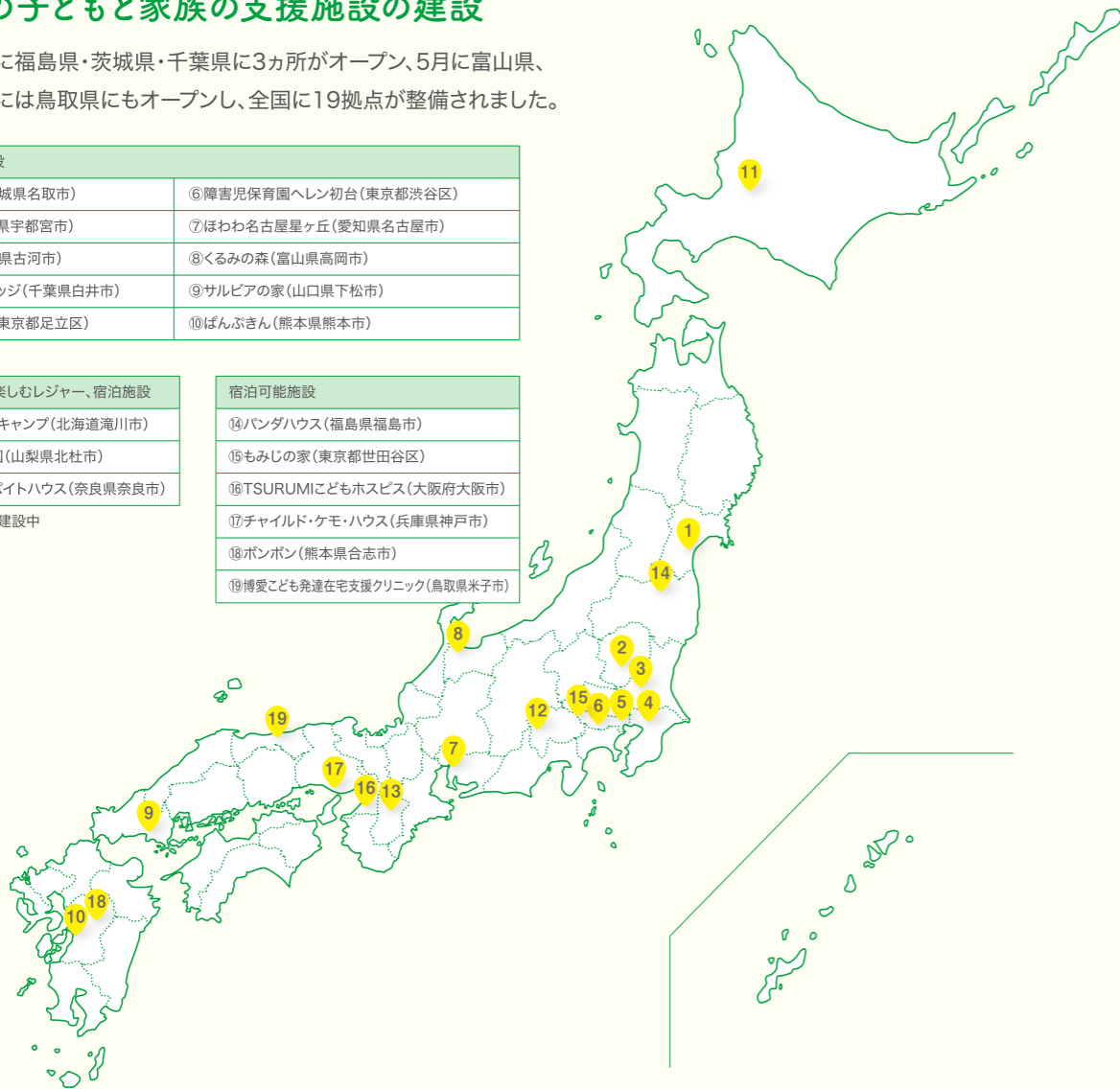
日本財団は、彼らが助けを必要としたとき、辛く悲しいとき、いつでも安心して頼れる「つながり」や、同じ病気と闘っている「仲間」、子ども達に夢や希望を届けるため全国に「生活サポート拠点」を増やすための活動を進めています。2018年度までに全国で19拠点が整備（うち8拠点がTOOTH FAIRYプロジェクト）され、全国で30のモデル拠点の整備を目指して活動をしています。

◇難病の子どもと家族の支援施設の建設

2018年4月に福島県・茨城県・千葉県に3ヵ所がオープン、5月に富山県、2019年3月には鳥取県にもオープンし、全国に19拠点が整備されました。

日中お預かり施設	
①あっと名取(宮城県名取市)	⑥障害児保育園ヘレン初台(東京都渋谷区)
②うりずん(栃木県宇都宮市)	⑦ほわむ古屋屋ヶ丘(愛知県名古屋市)
③Burano(茨城県古河市)	⑧くるみの森(富山県高岡市)
④フラットヴィレッジ(千葉県白井市)	⑨サルピアの家(山口県下松市)
⑤FLAPYARD(東京都足立区)	⑩ばんぶぎん(熊本県熊本市)

キャンプ、旅行を楽しむレジャー、宿泊施設	宿泊可能施設
⑪そらぶちキッズキャンプ(北海道滝川市)	⑭パンダハウス(福島県福島市)
⑫あおぞら共和国(山梨県北杜市)	⑮もみじの家(東京都世田谷区)
⑬奈良親子レスパイトハウス(奈良県奈良市)	⑯TSURUMIこどもホスピス(大阪府大阪市)
※沖縄県恩納村 建設中	⑰チャイルド・ケモ・ハウス(兵庫県神戸市)
	⑱ボンボン(熊本県合志市)
	⑲博愛こども発達在宅支援クリニック(鳥取県米子市)



2018年度 開設施設紹介

③茨城県古河市 Burano

【運営】
一般社団法人
Burano



難病や障害を持った子ども達を預けながら、ママが2階で在宅ワークを受託し働くことのできる施設

⑧富山県高岡市 くるみの森

【運営】
特定非営利活動法人
くるみ



医療的ケアやあらゆる障害を持った子ども達のためのリハビリルームや交流カフェを併設

④千葉県白井市 フラットヴィレッジ

【運営】
社会福祉法人
フラット



医療的ケア児向けの通所施設に知的障害者や看護師、保育士が働くレストランが併設

⑲鳥取県米子市 博愛こども発達 在宅支援クリニック

【運営】
医療法人 同愛会



難病の子どもとその家族の地域生活を支える担い手の育成を行い、短期入所も可能な施設



クラウンが病室に現れると、子どもも親も笑顔に



◇入院中の子どもを支える活動

どうしても治療が主になり制限のある入院生活では、子ども達が自分から何かを言うことができなったり、病気があることで劣等感を感じてしまったり、病院での生活に慣れてしまうこともあります。

このように長い入院生活で病気と闘い続ける子ども達に、子どもらしい時間を届けるため、クリニクラウン(臨床道化師)の病院訪問活動を支援しています。クリニクラウンが病室に現れると、この時ばかりは子どもらしく笑ったり、一緒に遊んだり、時にはいたずらっこの顔をみせてくれます。



普段はなかなか体験することのできないプログラムを体験

◇夢の体験をプレゼントする活動

呼吸器や車いすなどの制限により、旅行に行きづらい家族のために、安心して旅行やキャンプ等を楽しんでもらう活動を進めています。北海道滝川市にある医療ケア付キャンプ場「そらぶちキッズキャンプ」でのキャンプには、飛行機への搭乗が必要です。あるご家族は、呼吸器が必要なお子様と一緒に本当に飛行機に乗れるのかと不安を持ちつつ、航空会社や同行者の協力のもと無事キャンプ場に到着。現地では、馬とのふれあい・乗馬体験、収穫体験、日光浴、車椅子やバギーに乗ったまま登ることのできるツリーハウスでの冒険、といった多様なプログラムを体験することができました。

◇イベント参加者の声

普段できない体験をたくさんさせていただいた

医療ケアを受けながら車いすを利用する次男との外出は困難が多く、家族で行きたい場所ややりたいことを諦めることに慣れてきている長男をみて、母としていつも心苦しく思っていました。

今回のイベントでは普段できない経験をたくさんさせていただきました。

帰りの車で「楽しかったなあ」と何度も言う長男を見て、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。支援してくださった皆様、関わっていただいた皆様、本当にありがとうございます。



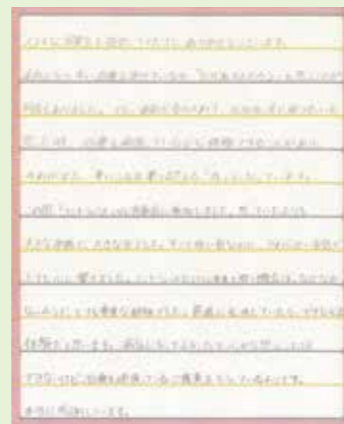
難病児と家族の
イベント参加者の母

辛いことを乗り越える力になっている

病気になり、つらい治療を受けている中、「なぜ私なんだろう」と思うことが何度もありました。でも、病気を受け入れて、元の生活に戻りたいと思った時、治療を頑張っているから体験できることがあり、それがまた、辛いことを乗り越える「力」になっています。

病気になってよかったと心から思うことはできないけど、治療を頑張っているご褒美をもらっているようです。

本当に感謝しています。



入院中の子どもたちへの
アートイベント参加者

**難病と闘う子どもとその家族が、
笑顔になれるよう支援の輪を広げていきます。**

CHILD SUPPORT PJT

子どもサポートプロジェクト
社会的養護のもとで暮らした若者への進学支援



夢をあきらめず、前へ進む若者の未来のために。

2016年にスタートした給付型奨学金制度は事情があって実の家族と暮らせず、社会的養護のもとで育った若者たちを支援するものです。彼らの多くは、親がいないことに加え、住む場所や学歴もない3重のハンデを負うことになると言えます。

そこで日本財団では、社会的養護のもとで暮らした若者を対象に、学費全額に加えて生活費や住居費もサポートし、

勉学やサークル活動といった学生としての経験を収入のためにあきらめず、できるだけ多く積んでもらうようにするために奨学金を創設しました。2018年度までに1~3期生、計43名の学生が「夢の奨学金」により、将来の夢に向かって一歩ずつ歩き始めています。皆様からのご寄付が、苦しい環境で育っても夢に向かい前に進もうとする若者へ、大きな力となって届いています。

◇日本財団「夢の奨学金」について

■社会的養護とは？

日本には、何らかの事情で実の家族の元で育つことのできない子ども達が約45,000人います。親の死亡や病気、経済的な理由などによる育児困難、育児放棄、虐待など事情は様々ですが、こうした子どもたちを公的責任において養育し、保護することを「社会的養護」と呼びます。

■進路は？

原則として18歳を迎えると、児童養護施設や里親家庭など、それまで暮らしていた場所から出て行かなくてはならない現状があります。こうした若者は全国で毎年1,800人ほど。その多くが住居費や生活費を捻出するために就労を余儀なくされます。経済的な理由に加え、体力的・精神的な疲労から進学をあきらめたり、進学しても長く続かなかつたりするケースが、一般の若者に比べて圧倒的に多く見受けられるのが実状です。例えば、大学や専門学校への進学率は一般の若者が74%であるのに対し、施設出身者は24%。また、施設出身者の大学中退率は約25%となっています。

■「夢の奨学金」の特徴

- ①対象となる若者の進学や就職に対する入学・授業料、生活費、住居費の給付
金銭的理由でアルバイトばかりの生活になってしまうのでは無く、勉強やサークル活動など学生としての経験をあきらめず、できるだけ多く積んでもらうようするため
- ②ソーシャルワーカーによる精神的ケア、卒業や就職サポート
- ③交流会の開催(年3回)、活動報告会の実施(年1回)
- ④奨学生による同窓会組織「日本財団夢の奨学金ネットワーク」の構築



奨学生同士、笑顔で意見交換する姿も

◇これまでの実績

1年目(2016年4月～)	1期生11名を採択※1 うち進級3名、卒業4名、中退4名
2年目(2017年4月～)	2期生15名を採択※2 うち進級10名、卒業4名、中退1名
3年目(2018年4月～)	3期生17名を採択 うち進級16名、入学断念1名※3
4年目(2019年4月～)	4期生19名を採択

※1:パイロットプロジェクトとして中京地区にて実施(ノウハウ構築、制度改善)

※2:対象を全国へ拡大 ※3:希望する学校の入学試験に不合格となったため、当該年度の進学を断念した



◇2018年度の主な活動

年1回開催される活動報告会では、奨学生が1年間をどのように過ごしたのか発表します。2018年度で卒業される奨学生も出てきました。2期生の沼津情報ビジネス専門学校子ども保育科3年生、石岡一幸さんは4月から公務員となり、保育士として公立保育所で働くことが決まっています。石岡さんは、児童養護施設と里親のもとで育ったことから、早く自立するため高校卒業後にいったん建築関係の仕事に就いたものの、「子どもを守る大人になりたい」と一念発起し、保育士の道を目指したことを紹介しました。



活動報告会では一年の過ごし方を、全員が発表

◇奨学生の声

より夢に近づくことができた

私は中学生の頃からボクシングを行っており、ボクシングによる大学推薦入学が、「夢の奨学金」の奨学生に選ばれる前に決まっていた。「夢の奨学金」の奨学生に選ばれなかったら、推薦入学を辞退することになって、ボクシングをあきらめ、今ごろは就職していたと思います。この奨学金を受けることができたことで、自分の夢である消防士になることや、ボクシングの指導者としての知識をつけることができ、より確実に夢に近づけています。

ボクシングの練習においても高校までは、監督からの指示で行うことが多かったのですが、大学に入り、基本練習を行ったあとは、自分で考え自分でメニューを決めていくため、自分に足りないところや自分の課題を見つけて、失敗しながらですが、自分の課題を自分で解決できる力が身につきました。2019年度よりゼミが始まり、ボクシングで1番多いケガである脳震盪について勉強しています。そして、2019年度がボクシングの選手としての最後の年であり、大学3年生ということで、就職に向けても本格的に動く時期でもあります。どちらもしっかり取り組んでいきたいと考えています。

福岡大学スポーツ科学部
スポーツ科学部3年
伯野 海人さん(第2期生)

元気に、自分らしく生活をしていく

私は今、「夢の奨学金」をいただき看護の勉強をしています。「夢の奨学金」はその言葉のごとく、本当に夢のような奨学金だということを実感しています。児童養護施設で生活していた高校生の時は、高校卒業後の生活に大きな不安を感じていました。その不安を感じないようにアルバイトやボランティア活動の予定を詰め込み、頻りに体調を崩していました。しかし「夢の奨学金」に出会った今は元気に自分らしく生活することができています。高校卒業後地元を離れ、今は夢であった看護の勉強を思う存分行っています。

そして休日にはゆっくりと身体を休めることができています。自分らしい生活を送る事ができるのは「夢の奨学金」のご支援や、「夢の奨学金」を通して出会えた人との繋がりがあったからです。心から感謝しています。何不自由なく勉学に専念できる今の恵まれた環境にいて良いのか不安になることもありますが、今は周りの大人の方々のお力をお借りし、私が今できることを考え行動していきたいです。そして、将来は社会のニーズに応えられる広い視野と専門的な看護の技術を身に付けた大人になれるよう努力していきます。

岡山労災看護専門学校2年
中川 咲夏さん(第3期生)

夢の奨学業を通じて、どんな状況にあっても夢をあきらめない若者を応援していきます。

DISASTER RECOVERY

災害復興支援



大災害が起きたとき、真っ先に動くために。

災害に最速で最適に動く。それが、日本財団の災害対策の指針です。2018年は多くの災害が発生しました。特に6月18日に発生した「大阪府北部地震」、6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に全国的な記録的大雨になった「平成30年7月豪雨」、9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」は甚大な被害をもたらしました。

日本財団は2014年3月、東日本大震災などにおける災害復興

支援活動の経験から、大規模な災害が発生した際に民間の立場で迅速な緊急支援を実施することを目的として、目標額300億円の「災害復興支援特別基金」を立ち上げました。そのため、多くの災害が発生した2018年においても、災害発生後すぐに現地に職員を派遣し、自治体やNPO等と連携しながら、現場のニーズに合った支援を行うことができました。皆様からのご寄付が、被災地で辛い思いをしている方々へ、大きな力となって届いています。

〈写真提供：和田 剛〉

◇日本財団の災害復興支援

日本財団は阪神淡路大震災以降50回以上の災害支援に出動しています。あわせて2011年に発生した東日本大震災などにおける災害復興支援活動の経験から、2014年3月に大規模な災害が発生した際に民間の立場で迅速な緊急支援を実施することを目的として、目標額300億円の「災害復興支援特別基金」を立ち上げました。東日本大震災の最大の教訓は、災害対策は起きてからでは遅いということです。大災害が起きたとき、真っ先に動くための支援金を蓄えておく仕組みが必要です。

支援金とは



救命・復旧活動	使われる
配分	支援団体が使い道を決定
被災地に届くまで	すぐに届く

義援金とは



救命・復旧活動	使われない
配分	被災者に公平に配分
被災地に届くまで	時間がかかる

※「支援金」とは、被災者の方に直接送られる「義援金」とは違い、被災地でさまざまな支援活動を行う団体が被災者を助けるために活用されるものです。大規模な自然災害が発生した場合、被災地ではインフラの復旧などの行政による活動と同時に、民間の視点による被災者に寄り添ったきめの細かい支援活動も欠かせません。

◇2018年度の主な活動

大阪府北部地震支援（2018年6月18日 7時58分発災）

日本財団は同日中に専門知識を持った先遣隊を被災地に送り、避難所や被災状況の把握を行いました。地震の被害が大きかった茨木市の中心に普段から連携している技術系プロボノ[※]と支援活動のための拠点を立ち上げ、屋根のシート張りなどの活動を行いながら重機を使っての危険なブロック塀の除去や土砂崩れにより二次災害の対応などの作業を行いました。また、破損した屋根への応急処置に関する講習会を開催するなど、地震後のたび重なる台風で被害が拡大した被災地のニーズに合わせた支援を行いました。

※プロボノとは、職業上持っている知識やスキルを活かし活動するボランティア



ブルーシートで屋根の応急処置



拠点となった茨木ベース

◇支援現場の声

福祉サービスを災害時、どう継続していくか

知的障害や発達障害を持つ子ども達が、地震による避難生活で行き場をなくしていました。そのために、避難所の教室を1つお借りして、障害を持つ子ども向けの支援活動を行いました。

福祉サービスはもともと災害に弱いという側面があり、事業所が閉鎖されて職員も集まらなくなることが多いので、被災と同時に必要な福祉サービスが受けられなくなるのが、今までの災害でもよくありました。福祉サービスを災害時にどう継続させるのかについて、今後社会でもっと考えていく必要があると思います。



NPO法人
ホップ障害者地域生活支援センター
代表理事 竹田 保さん

何かせずにはいられなかった

災害が発生してからは何かせずにはいられなくなり、おにぎりを作って被災された人たちに配ったのが活動のきっかけでした。その後、炊き出しや物資提供などの支援活動を本格的にスタートしました。

発災から1カ月が経つと被災者が必要としているものも変化してきたので、それに合わせて私たちの活動内容も変化させて、独居のお年寄りの方向けの訪問活動など始めました。週に2~3回サロンを開催し、被災者の相談に乗っています。参加者が笑顔になってくれるとこっちも元気になりますね。



U.grandma
代表 松島 陽子さん

いざ災害発生時、被災地のリアルな状況をいち早くつかみ
必要な支援を必要なところに届けます。

平成30年7月豪雨被災地支援（2018年6月28日~7月8日発災）

2018年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に全国的に記録的な大雨となった影響で、河川の氾濫、浸水被害・土砂災害等が発生し死者237名、行方不明者8名、住家の全半壊約18,000棟（消防庁：2019年1月9日時点）の甚大な被害をもたらしました。

(1) 避難所・在宅避難者（災害時要配慮者）への支援

- 避難所における災害関連死の防止施策の推進医療、福祉系ボランティアの派遣支援
- 断水でも使用できる衛生的なトイレの設置
- 避難所や自宅で避難生活を余儀なくされる障害者や高齢者、乳幼児等、特別な配慮が必要な人に対するニーズ調査・支援など

(2) NPO・ボランティア団体への支援

- 専門的な支援を行うボランティア団体（医療、福祉、水害対応など）への支援
- 被災地と連携しボランティア不足を解消するための仕組み等を構築・実施する活動

岡山県倉敷市の真備町に被災住民自らの手で復旧を行うために必要な工具や軽トラックの貸し出しを行う「日本財団復興センター」を設置しました。また重機ボランティアや訪問介護ステーションなど専門的な知識や技術を持っている組織、団体と連携しながら被災した住民への支援を行いました。



西日本の広い範囲で甚大な被害をもたらした



真備町に設置したシャワールームへの寄せ書き



水なしでも使うことができる簡易トイレ

平成30年北海道胆振東部地震被災地支援（2018年9月6日 3時7分発災）

2018年9月6日にマグニチュード6.7、最大震度7の地震が発生し、死者42名（消防庁：2019年1月28日）、土砂崩れやライフラインの寸断など、大きな被害が出ました。特に震源に近い厚真町では広範囲に渡る土砂崩れが発生し、人的にも経済的にも大きな被害をもたらされました。

また、断水が長引く地域も多かったことから、衛生的な簡易トイレを輸送して設置しました。ボランティア活動を行うとともに、被害にあわれたご遺族への弔慰金の支給とあわせて、炊き出しや重機ボランティア等の現地で活動するNPO団体への支援を行いました。

被災地支援策

- (1) NPO・ボランティア団体への支援
- (2) 断水でも使用できる衛生的なトイレの設置
- (3) 弔慰金の支給



ボランティアの皆様での炊き出しを実施



ボランティアや地元の支援団体による応援寄せ書き

HEROs

~ Sportsmanship for the Future ~

ヒーローズ



アスリートが社会とつながり活躍できる仕組みづくり

“HEROs”は、現役時代も引退後もアスリートが社会とつながり活躍できる仕組みを日本でも広げていくために、2017年に始まった活動です。

競技を越えたアスリートが「日本財団HEROsアンバサダー」として集まり、スポーツの力と社会課題をつなげるこ

とで、ファンやメディアを巻き込み社会課題の解決を加速させることを目的としています。

皆様のご寄付はアスリートとともに進める社会貢献活動に活用させていただいております。

◇HEROs ACTION

HEROs ACTIONでは、スポーツの力やアスリートの力を社会課題の解決のために活用した実践活動の場を提供しています。

2018年11月、阪神タイガースの鳥谷敬選手が、日本のファンから寄付していただいた靴や文具を子ども達にプレゼントするために、東南アジアのミャンマー連邦共和国へと向かいました。普段は靴を履いたことのない村の子ども達も、靴を履くと走りやすいと大好評。今回はHEROsを応援する皆様からのご寄付で、すべり台など子ども達に人気の遊具も寄贈しました。



プレゼントした靴は大好評



靴を届けた鳥谷選手



広島県坂町を訪れたアスリートたちと地元の皆様

「平成30年7月豪雨」により甚大な被害を受けた被災地域の支援を目的に、10月18日「日本財団 HEROsアンバサダー」と賛同者アスリート17名が、広島県小屋浦町を訪れ、地道な活動を続けるNPOへの激励を行いました。また仮設住宅に住む高齢者の支援を地域の中高生とともに実施。助け合いのきっかけづくりを行いました。

◇HEROs AWARD 2018

アスリートや、チーム、NPOが実施する「優秀な社会貢献」活動を表彰。

社会とつながるスポーツマンシップがいかに発揮されているのか、

社会におけるスポーツの力を「社会に可視化」しアスリートの活躍の場を広げることを目的としています。



Being ALIVE Japanの活動の様子

HEROs of the Year 2018 「長期療養が必要な子供に青春を」
NPO法人 Being ALIVE Japanのプロジェクト

重い病気などで、長期療養を必要とする子ども達にスポーツの機会を提供し、青春を届けるプロジェクトです。アルパルク東京他3つの男子プロバスケットボールクラブや慶應義塾体育会野球部などのスポーツチームに子ども達が入団し、約4-6カ月間、定期的に練習や試合に参加するプログラムを提供しています。スポーツを通じて子どもたちに目標や希望、仲間との存在で溢れる青春を届けることで、新たなモチベーションに繋がっています。



HEROs AWARD2018 受賞者の皆様

【その他の受賞者】

- ・車いすの寄贈を行う「Ring of Red」赤星憲広さん(プロ野球)
- ・カンボジアの子どもたちの自立支援「HEARTS of GOLD」有森裕子さん(マラソン)
- ・一次救命を学ぶ「いのちの教室」飯沼誠司さん(ライフセービング)
- ・「ユニセフを通じ世界の子どもたちを支援」長谷部誠選手(サッカー)
- ・タイのHIV孤児院の支援「浦和レッズハートクラブ×バーンロムサイ」浦和レッズ(サッカー)

◇支援現場の声

被災者と支援ボランティアをスポーツの力で応援

多くの被災者が生活再建の目処が立たず疲れがピークになっている中、HEROsのアスリートたちが被災地の広島県小屋浦を訪問してくれました。

被災現場で黙祷を捧げてくれたあと、スポーツで交流した地元の中高生を引き連れて仮設住宅で単身高齢者への支援をしてくれたり、被災地で活動する私たちボランティアの活動を視察し激励してくれたり、集まったメディアに被災地への募金やボランティアの継続を呼びかけてくれたりと、アスリートの力を使って被災地に大きなパワーを届けていただきました。

HEROsの活動を支えてくださっているHEROs FUNDへの寄付者の皆様にも心から感謝します。



災害ボランティア
坂町ようよう倶楽部
代表 岡村 繁範さん

障害児のためのサーフィンスクール

Ocean's Loveでは、障害のある子ども達にサーフィンを楽しんでもらうことにより、『海の素晴らしさ・海への愛・海からのエネルギー』を感じてもらい、そのご家族にも、サーフィンをしている子ども達の姿を見て『子ども達の無限の可能性を見出していきたい』と考えています。そして、スクールに参加して頂いている数多くのボランティアの皆様にも、障害のある子ども達と一緒に一日を過ごすことにより、障害に対する理解を広げてもらいたいと願っています。サーフィンという新しいチャレンジをした子ども達は、大きな自信をつけ、その自信がさらに新しいチャレンジに繋がります。スポーツはカラダだけでなくココロの成長に繋がれると感じています。

HEROsを支援して下さる皆様にも、障害がある子ども達の無限の可能性を感じていただき、そして共にスポーツが持つ力を信じ、ノーマライゼーションを一緒に進めていきましょう。皆様のご支援に感謝しています。



認定特定非営利活動法人
Ocean's Love
アンジェラ“磨紀”バーノンさん

スポーツの力やアスリートの力による社会貢献活動を広げていきます。

AND MORE

その他のプロジェクト



みんながみんなを支える社会をめざして

皆様からいただきました大切なご寄付は、障害者支援や地域活性化事業など、様々な事業にも活用させていただいております。また、企業や団体の皆様が主体的に寄付を呼びかけていただく取り組みも広がっています。

みんながみんなを支える社会をめざして、皆様のご寄付は日本中に大きな力となって届いています。その他のプロジェクトでは、障害者の就労変革を目的としたものや異才発掘プ

ロジェクト、企業や団体とコラボレーションした取り組みなどを一部ご紹介させていただきます。様々なかたちで関われる活動を紹介することによって、より一層のご理解とご協力を賜るとともに、一つの地球に生きる、一つの家族として。

人の痛みや苦しみを誰もが共にし、「みんなが、みんなを支える社会」をつくっていくことを日本財団は目指しています。

◇その他のプロジェクト

障害者をショコラティエに!

ショコラを活用した障害者
就労の変革プロジェクト

(一社)ラ・バルカグループ

食材の中でも、一番自由にシルエットを形成できるチョコレート。手作業でしっかり仕上げたチョコレートを、付ける、型に流すだけで、あとは発想次第で自由なものをつくることができます。

障害者の方たちがショコラティエとなって、全国にランチを展開しており、2018年度末で全国28拠点整備されています。皆様もお洒落で美味しい「久遠チョコレート」ぜひお試しください。



見た目も味も素敵な久遠チョコレート

異才発掘プロジェクト

2018年度

「異才発掘プロジェクト ROCKET」

東京大学 先端科学技術研究センター

2018年度の「異才発掘プロジェクト ROCKET」は5期生としてスカラー18人を選抜しました。また小学生以下で異才を感じる子ども達は「ジュニア」という新しい制度の下で新たに14人を迎え、合計32人が加わりました。「どんぐりは食べられるか!」「PBL車、思い出の車を再生せよ!」「氷で火を起こせ!」などのミッションに挑戦し、一般の学校教育では行われないような学習に日々励んでいます。



教科や分野をこえたユニークなお題に真剣に取り組む子ども達

◇企業・団体とのコラボレーション

多くの企業や団体からご寄付をいただきました。一部ではありますが、取り組みをご紹介します。

◇募金活動

川崎フロンターレ選手会様

2017年Jリーグを制覇した川崎フロンターレ。選手会の皆様からの呼びかけで「平成30年7月豪雨」への募金活動を実施していただきました。試合前・ハーフタイム中など、選手自ら先頭に立ち、募金の呼びかけをしていただきました。



2018年7月22日 選手会による募金活動



◇寄付商品

フェンディジャパン株式会社様

FENDIがチャリティ企画「ジャパン ピーカブー プロジェクト (THE JAPAN PEEKABOO PROJECT)」の一環で、世界に一つデザインされたバックがオンラインオークションに出品され、その収益全額を日本財団へ寄付していただきました。

バックのデザインをしていただいたのは、国民的俳優松田優作を父に、女優松田美由紀を母にもつシンガーのゆう姫 (Young Juvenile Youth) さん。彼女のデザインした世界に一つだけのバックの収益をご寄付いただきました。



◇ポイント等による寄付

LINE株式会社様

LINE株式会社(本社:東京都新宿区)が推進するCSR活動「LINE SMILE+ PROJECT(ラインスマイルプラスプロジェクト)」の一環として、東日本大震災から7年を迎える2018年3月、コミュニケーションアプリ「LINE」にて、日本財団が設置する「災害復興支援特別基金」への寄付を呼びかけていただき、スタンプ・LINE Pay・LINEポイントで集まった金額をご寄付いただきました。



活動理念

痛みも、希望も、未来も、共に。
Share the pain. Share the hope. Share the future.



一つの地球に生きる、一つの家族として。

人の痛みや苦しみを誰もが共にし、

「みんなが、みんなを支える社会」を日本財団はめざします。

市民、企業、NPO、政府、国際機関。世界中のあらゆるネットワークに働きかけます。知識・経験・人材をつなぎ、ひとりひとりが自分にできることで社会を変える、ソーシャルイノベーションの輪をひろげていきます。

◇会計報告（2018/4/1～2019/3/31）

基金名	寄付額(単位:円)	支出額(単位:円)	備考
TOOTH FAIRY	158,605,623	112,202,926	うち金属換金手数料 4,616,406円
日本財団子どもサポートプロジェクト基金 子どもの貧困対策支援	158,987,264	10,244,051	うちチャリティ自販機からの入金 64,839,179円
日本財団子どもサポートプロジェクト基金 難病の子どもとその家族の支援	75,186,184	219,062	うちチャリティ自販機からの入金 50,680,300円
日本財団子どもサポートプロジェクト基金 社会養護のもとで暮らした若者への進学支援	77,337,987	10,239,551	うちチャリティ自販機からの入金 32,646,990円
災害復興支援特別基金	246,983,853	178,759,236	うちチャリティ自販機からの入金 62,902,745円
HEROs FUND	27,728,641	20,219,221	うちチャリティ自販機からの入金 25,694,630円
遺贈基金	107,722,105	6,500,000	
夢の貯金箱	55,893,034	228,718,834	
Shibuya Inclusive TOILET基金	1,000,000,000	0	事業進行中のため支出は次年度へ繰越
日本ベンチャー・フィランソロピー基金	268,033,851	20,081,642	
海と日本プロジェクト推進基金	24,100,000	23,925,629	
社会貢献ポートレース基金	15,176,136	0	事業進行中のため支出は次年度へ繰越
キット、願いかなう。基金	6,000,000	6,000,000	
いろはにほん基金	692,527	0	事業進行中のため支出は次年度へ繰越
キリン「絆」プロジェクト	0	2,592,394	
キリン「絆」プロジェクト 熊本地震復興応援基金	516,312	9,162,938	
子どものホスピスサポーターズ基金	109,000	25,434,226	
ママ基金	0	4,875,257	
LET'S TREE	0	229,432	
合計	2,223,072,517	659,404,399	

※日本財団チャリティ自販機からの寄付総額 261,883,039円

確実に、正確に、届けます。

2018年度もたくさんのご寄付ありがとうございました。

「つらい思いをしている子どものために」「被災地で踏ん張っている方々のために」

という皆様からのたくさんの想いが、私たちの原動力です。

皆様からの寄付は間接経費をいただくことなく、100%現地へ届けます。

日本財団ドネーション事業部ファンドレイジングチームは、ご寄付者様の想いをしっかりと現地に届

けられるよう活動してまいります。引き続きあたたかご寄付をよろしくお願いたします。

ドネーション事業部 ファンドレイジングチーム一同



◇ご寄付・ご支援のお願い

日本財団チャリティー自販機

飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトにご寄付いただく、自動販売機の設置をすすめています。オフィスや施設の自販機を「チャリティー自販機」に変えて社会貢献に参加しませんか。

お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00~17:00

お電話  0120-892-139

インターネット <https://yumecho.com>



遺贈寄付

遺贈寄付は、遺贈によって自分の遺産を寄付することです。日本財団遺贈寄付サポートセンターを通して、あなたの意志・意向を最大限尊重し、未来の社会のために役立てるお手伝いをいたします。

お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00~17:00

お電話  0120-331-531

インターネット <https://izo-kifu.jp>



TOOTH FAIRY

歯科治療や入れ歯等の金属を沢山集めてリサイクルすることで、子ども達を支援する大切な資金となります。TOOTH FAIRYプロジェクトはこの活動に共感した歯科医師が、患者様の協力により集めた金属をご寄付いただくことにより進めています。

お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00~17:00

お電話  0120-24-2471

インターネット <https://tooth-fairy.jp>



現金・その他決済代行サービスによる寄付

■オンラインでの寄付 (2019年4月時点)

- 【銀行口座引き落とし】 口座セレクト
- 【クレジットカード】 VISA、MASTER、JCB、AMERICAN EXPRESS、DINERS
- 【コンビニ決済】 ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、セイコーマート
- 【電子マネー】 楽天Edy
- 【キャリア決済】 auかんたん決済、docomo、ソフトバンクまとめて支払い
- 【その他決済】 PayPal、Apple Pay(JCB、MASTERのみ)、Pay-easy、WebMoney

■銀行振り込みでの寄付またはTポイントでの寄付



お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00~17:00

お電話  0120-533-236

インターネット <https://www.nippon-foundation.or.jp/donation/payment>



ご寄付、各種活動に関する
お問い合わせはこちら。

電話

受付時間 | 9:00-17:00(月～金/土日祝日を除く)

 0120-533-236

インターネット

日本財団



www.nippon-foundation.or.jp



**THE NIPPON
FOUNDATION**

For Social Innovation

公益財団法人 日本財団

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2

Tel: 03-6229-5111 Fax: 03-6229-5110

E-mail cc@ps.nippon-foundation.or.jp